

ナス果実小陥没症の原因は「褐色斑点病菌の担子孢子感染」

【1 成果の概要】

- (1) ナス果実小陥没症は、褐色斑点病菌 (*Thanatephorus cucumeris* = *Rhizoctonia solani* AG-3 TM) の担子孢子感染により生じることがわかりました。感染から小陥没症発病までの潜伏期間はおおよそ6～8日です (図1)。
- (2) 感受性の品種間差異は認められますが、褐色斑点病の発生が少ない品種でも小陥没症は発生するため、品種の切り替えのみで被害を回避するのは困難です (図2)。

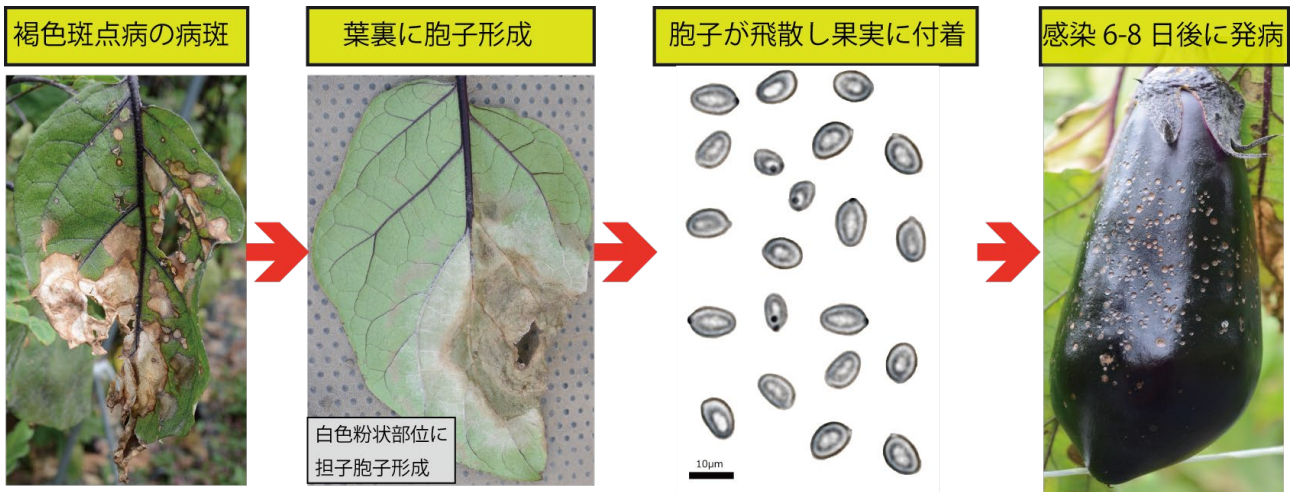


図1 ナス果実小陥没症の感染・発病過程模式図

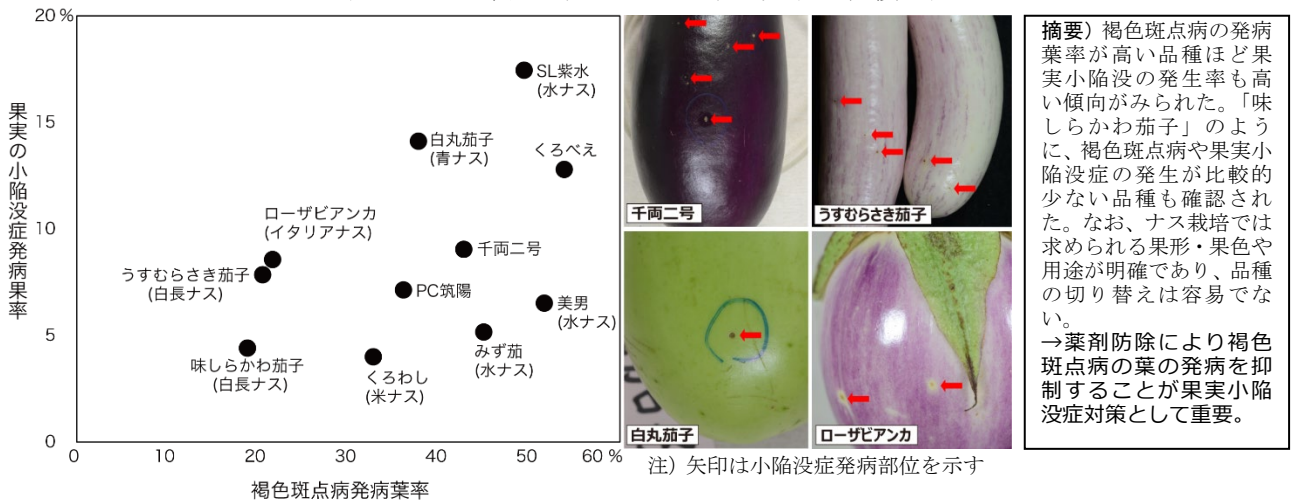


図2 ナス褐色斑点病・果実小陥没症に対する感受性の品種間差異 (左) と品種別の果実小陥没症 (右)

【2 留意事項】

- (1) ナス褐色斑点病菌の担子孢子は、褐色斑点病の発病葉に形成されます。このため、薬剤防除により褐色斑点病の葉の発病を抑制することが果実小陥没症対策として重要です。
- (2) 農薬選択の際には、使用前に必ずラベルを確認し、使用基準を遵守してください。